

## 特集：卒業

茗溪会筑波大学支部賞を受賞して —学業以外でも頑張りたい、そんなあなたへ。—

長友 亘（筑波大学 生物学類 4年）

卒業式後すぐに原稿執筆のご依頼を頂いたはずなのに、あっという間に4月も1週間を過ぎてしまいました。社会人として新しい生活がスタートし一分からないことだらけで、社会人と名乗るのもおこがましいような気がします。採用になってからの様々な手続きを行ったり、職場の方々と話をしたりする中で、もう学生じゃないのだな、という感覚を噛みしめています。もう少し学生という身分に甘えていたかった、という気持ちもあることはありますが、いつかは飛びこまなければいけない環境、失敗して当たり前の精神で頑張りたいと思います。

茗溪会筑波大学支部賞。正直なところ、この賞は1人で受けるには大きすぎるものだと感じています。頂いた賞状には「学生生活をとおして筑波大学のために大きく貢献」とありますが、どの活動でも「筑波大学のため」なんてことを意識してやった覚えは全くなく、自分が特筆すべき活躍をしたわけでもない。一緒に活動した友人や先生方がいたからこそ、国際生物学オリンピックを含む様々な活動で成功を収めることができた。なので、この賞はそうした活動に関わった人たちへの賞であり、自分はいくまで代表として受け取った、という認識でいます。それだけの評価をもらえる活動に参加できたことが、大学生活での最大の誇りです。

ここからは、自分が関わった活動の紹介をさせていただこうと思います。まず、生物学オリンピックの学生スタッフ、通称SCIBO（サイボ）。2年に1度、筑波大学で国際生物学オリンピックの日本代表選考2次予選（日本生物学オリンピック、JBO）が開催されており、学類生もスタッフとして参加することができます。2009年には日本で初めての国際生物学オリンピック（IBO）in つくばが行われました。

スタッフの仕事内容は、簡単に言えば選手の案内役。試験会場への誘導であったり、休憩後の動きについて指示を出したり、選手が不慣れた地でも不自由なく過ごせるよう、生物学オリンピックの運営を補助します。堅苦しい雰囲気では全くなくて、選手が生き生きしているのもそうですが、学生スタッフも負けなくらい楽しんでた気がします。学年を越えて一緒に活動できるので、得られることもたくさんあると思いますよ。

自分とは言えば、2年時のIBOでは班のサブリーダー、3年時のJBOではリーダーを務めさせていただきましたが、みんな指示を出さなくても動ける人ばかりなので、指示を出すというよりは自分も走り回っていたのをよく覚えています。…指示をもらえなくて大変な思いをさせていたのかも知れませんが（笑）。

選手が笑顔で最終日を過ごしてくれるのを見ていて、本当にスタッフとして活動して良かったなというも感じていました。最初は緊張しているように見えても、スタッフや他の選手と時間を過ごすうちに段々と笑顔が増えていく様子は、スタッフとして活動する大きなやりがいの1つだったように思います。写真は、2009

年のIBOで選手から「みんなで撮りたい」と言われて撮ったものです。忘れられない一枚。



SCIBO 以外にも、チーム里山という活動にも関わっていました。これは千葉親文先生のプロジェクトで、谷津田というかつて水田として使われた場所を再利用し、里山の環境を復元するとともに、準絶滅危惧種に指定されているアカハライモリを教育・研究用として養殖を行う、という目的のもとに行われた活動です（説明不足も甚だしいような気がするのですが、興味がある方は<http://imori-net.org/>の「イモリを育てる」をご覧ください）。ここでは、水田の再生段階からお手伝いさせていただき、また、八畑先生や丸尾先生にご指導いただきながら、生物調査や子供たち向けのイベントを行うなど、多くの貴重な体験をさせていただいたように思います。

もう1つは、Science Communication グループ、SCOUT（スカウト）。Matt先生と尾嶋さんが立ち上げたグループで、生物学類生だけでなく、他学類の学生や院生も一緒に活動しています。子ども向け科学実験教室「科学遊びラボ」では、どの年代を対象に・何を目的として・どのような実験を行うか、といったことをメンバーで議論し、予備実験を繰り返し、最終的に様々な場で実践しています。その中で子供の視点というのもまた、勉強になるものがあります。さらに、科学に関する記事を執筆して掲載するウェブサイト「Tsukuba Science (<http://tsukubascience.com/>)」もあります。子供が好き・教職を目指している・学んだことをアウトプットする場が欲しいといった思いを持っている方々、SCOUTで活動してみたいかでしょうか。そこのあなた！好奇心、足りてる？

最後になりましたが、学生生活を通じてお世話になりました、全ての友人・先生方に感謝を申し上げます。この記事が、1人でも多くの方の充実した学生生活を送るきっかけになれば幸いです。ご清覧ありがとうございました。